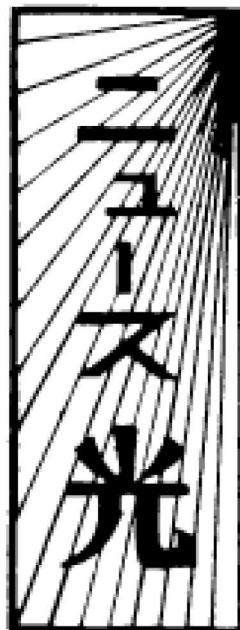


教区創立100周年記念に寄せて



第168号

2022年10月30日

発行所

祇園カトリック教会

信徒会

hikari@gionkyokai.jp

ありがとうございます。そして、よろしく。

祇園教会 助任司祭 久保裕己

普段何気なくミサに参加されておられる方も多いでしょう。私自身、司祭叙階以前は当たり前のようにミサに参列していたものです。改めてミサとは何なのか考えてみませんか？ミサとは単に御聖体を頂くための儀式ではないのです。

ミサの基本的構造は実にシンプルです。簡単に説明するならば、前半の『みことばの典礼』、後半の『感謝の典礼』から成り立っています。『みことばの典礼』聖書を通して語られる神様の御業と御言葉、信仰宣言を挟んで、『感謝の典礼』イエス様と共に捧げる祭壇であり食卓で行われる聖体祭儀と拝領、最後に派遣の祝福で締めくくられます。ミサ全体を通して『感謝の祭儀』と呼ばれ、派遣の際に言われる「感謝の祭儀を終わります。行き



ましょう、主の平和のうちに。」の言葉を受けて全宣言し、それぞれの社会に派遣されるのです。

まさにミサとは、これまでの神様の働きや導き、み言葉に感謝し、心新たにキリストの聖体を頂き、聖体の恵みに力づけられて社会とその未来に向かつて力強く歩み出すという行為です。

先日、カトレット神父様の追悼ミサが行われ、またそのミサの中で祇園教会が広島教区に移管されました。私たちの祇園教

会のために多大なる尽力を下されたカトレット神父様の追悼ミサを広島教区の白浜司教様が主司式されたという事はミサの意義から見ても、これからの祇園教会の歩む道から見ても非常にシンボリックなミサとなったことでしょう。

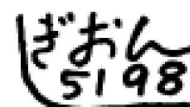
私たちの祇園教会はかつて多くの宣教師の神父様方に支えられ、数えきれないほどの恵みを受け今日までの道のりを歩んできました。その祇園教会がイエズス会から広島教区へと移管されることは決して切り離されるとか見捨てられるとか、イエズス会との関りが無くなるということではありません。教区への移管は祇園教会の成長を意味します。幼稚園児が卒園して懐かしい先生達やお友達と別れて、不安と希望を込めて小学校に入学するように、祇園教会も新しいステージへの出発なのです。そこでは新しい出会いと学びがあり、苦しいことも楽しいことも今までは違い、新たな歩み方が求められます。子供が成長するように祇園教会も成長するのです。今日まで、たくさん宣教師の神父様方が私たちを支えてくださいました。それらの恵みを忘れるべきではありません。感謝するのです。いつまでも記憶に留め、感謝し、未来に向かつて派遣される、祇園教会の歩みもミサの意義も全く同じな

のです。

2022年9月19日から1年間をかけて広島教区は100周年を祝います。私たち祇園教会の大きな成長のタイミングと、広島教区の大きな感謝のタイミングが重なっています。単なる偶然でしょうか。今こそ、たくさん恩人から育てて頂いた恵みを豊かな実りへと成長させましょう。

広島教区の100周年記念行事は多くのイベントで彩られています。あまりにも多すぎて一つ一つを紹介することは難しいですが、様々な形でお知らせがなされます。ぜひ、皆様の積極的な参加をお願いいたします。今こそ私たちの晴れ舞台、支えられ育てられてここまで育った祇園教会の姿をカトレット神父様始め宣教師の神父様方に見せるチャンスです。100周年行事を通して胸を張って私たちの祇園教会の姿を広島教区にアピールしましょう。

「カトレット神父様、今日までありがとうございます。広島教区の皆さま、これからよろしく。」



コロナ禍でミサもお休みになる日々、目を閉じ、耳をすまして、お御堂と、その鐘の音を懐かしみ、

一時の平安を感じた方もいらっしゃるのでは無いでしょうか。

さて、鐘の音には、いろいろな役割や意味があるようです。そして、その用途によって鳴らす季節、時刻、回数や強弱なども様々とか。

例えば、教会の鐘は都市自治体の用務にもたびたび使われ、品物の競売、葡萄の収穫始め、収税吏の到着、パンの焼き上がり、酒場の閉店なども知らせたそうなんです。人々の日々の暮らしに鐘が溶け込んでいる様子がよく伝わってきます。

また、深い森で道に迷った人は、鐘の音を頼りに森から抜け出すことができたそうです。まさに人命救助です。

こんなふうになんか愛され、信頼されている鐘ですから、名前もついていて、ローマのサン・ピエトロ大聖堂の鐘は「カンパノーネ(大きい鐘)」、ケルンの大聖堂の鐘は「太つちよペーター(ペーター鐘)」です。

では、我らが祇園教会の鐘よ、君の名は？呼んでみたいのです。(いりす)